科目基礎情報 科目番号 授業形態 開設期 教科書/教材 担当教員 到達目標 5年間表合にてリック 卒業論文 卒業研究発表 計画性 学科育方法 提業 打選業 1stQ 前期 2ndQ	中川 イ に 着けた タ	実習 学科 員から研究分野に関連する 多、石井 宏幸,北折 典之,高橋 知識をもとに、指導教員か 一発表を行う。 各発表会で 想的な到達レベルの目安 が一発表を行う。 各発表会で 想的な内容の容の容ををするで で見通いであることで で見高いの進足ができるのでで でのった。とるのでで でのった。とるのでで であるできるのでで であるである。という。 は、カッショールとるの 関係 のまで考察でで に、カッショールとるの展 は、カッショールとるの展 は、カッショールとるの展 は、カッショールとるの 関係 のに、カッショールとも は、カッショールとは、 でも、このもは、このもは、このもは、このもは、このもは、このもは、このもは、このも	対象学年 週時間数 3 教科書や学術論文が適宜 三男,土屋 賢一,町田 茂	別と単位数 指示される 、伊藤 は で	を行う。 研究成果に 内容に基づいた卒業 の内容に基づいた卒業 の内容に基づいた卒業 の目安(可) でを作成できる できる できる できる できる できる できる できる	未到達レベルの目安  卒業論文を作成できない  卒業研究発表を行うことができない  計画的に実施できない  計画的に実施できない  と問題発見能力を身につけして学ぶ。  て異なるが、中間発表会とを期待している。10月下 場影よび目的、ならびに、通過で数性会での質疑応答を通過である。10月下		
授業形態 開設期 教科書/教材 担当教員 到達目標 5年間の高にてロック 卒業研究発表 計画性 学科の到達目標項 教育方法等 概要 授業の進め方・方法 注意点 計画	実物通信       指中       おびまり       ま物通信       おびまり       この       日       5る指最句こし       5る指最句こし       日       10       10       10       10       11       12       13       14       15       16       17       18       19       10       10       10       10       10       10       10       10       11       12       13       14       15       16       17       18       19       10       10       10       10       10       10       10       10       10       10 <td< td=""><td>学科  員から研究分野に関連する  人石井 宏幸,北折 典之,高橋  四識をもとに、指導教員から一発表を行う。 各発表会で  理想的な到達レベルの目安にいた。 各発表会で  理想的な対理を解析である。 との後の変にできるの進展にできるのがよるののである。 とののを関すである。 とののを関するのもないできる。 とののもないできる。 とのもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいに、 ののもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできない。 またいのもないできない。 またいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのは、 はいのもないでは、 はいのはないでは、 はいのはないでは、 はいのは、 はいのはな</td><td>単位の種 対象学年 週時間数 教科書や学術論文が適宜 三男,土屋 賢一,町田 茂 ら与えられたテーマについ での教員の助言を参考にし 標準的な到達レベルの目 適切な内容の卒業論文を 成できる 適切な卒業研究発表を行 ことができる 今後の検討事項に優先順をつけて対応できる。 での解決にはチームワーク でいるので、段階間などを でいて発表を行って、の時間などを でいて発表を行う。研究にあた目 でいて発表のを目れて対応できる。 でいて発表のを目 でいて発表ので、日間などを できまするよう紹める。</td><td>別と単位数 指示では、 指示では、 を全する。 は、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 の</td><td>履修単位: 14 5 14 5 14 ま未希雄,庄司良,城元行う。基づいた卒う 以ルの目安(可) を作成できる 発表を行うことが 実施できる 戦した発表を行うことが 実施できる 戦した発現されたできる。 戦した発現されたできる。 は、独研究テーマラマのおった。 は、とをのを変元できるである。 は、ことをのを変元できるである。 は、ことをのを変元できるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのようとに残された。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをいることをいることをいることをいることをいることをいることをいることをいる</td><td>基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分</td></td<>	学科  員から研究分野に関連する  人石井 宏幸,北折 典之,高橋  四識をもとに、指導教員から一発表を行う。 各発表会で  理想的な到達レベルの目安にいた。 各発表会で  理想的な対理を解析である。 との後の変にできるの進展にできるのがよるののである。 とののを関すである。 とののを関するのもないできる。 とののもないできる。 とのもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいに、 ののもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできない。 またいのもないできない。 またいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのは、 はいのもないでは、 はいのはないでは、 はいのはないでは、 はいのは、 はいのはな	単位の種 対象学年 週時間数 教科書や学術論文が適宜 三男,土屋 賢一,町田 茂 ら与えられたテーマについ での教員の助言を参考にし 標準的な到達レベルの目 適切な内容の卒業論文を 成できる 適切な卒業研究発表を行 ことができる 今後の検討事項に優先順をつけて対応できる。 での解決にはチームワーク でいるので、段階間などを でいて発表を行って、の時間などを でいて発表を行う。研究にあた目 でいて発表のを目れて対応できる。 でいて発表のを目 でいて発表ので、日間などを できまするよう紹める。	別と単位数 指示では、 指示では、 を全する。 は、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 の	履修単位: 14 5 14 5 14 ま未希雄,庄司良,城元行う。基づいた卒う 以ルの目安(可) を作成できる 発表を行うことが 実施できる 戦した発表を行うことが 実施できる 戦した発現されたできる。 戦した発現されたできる。 は、独研究テーマラマのおった。 は、とをのを変元できるである。 は、ことをのを変元できるである。 は、ことをのを変元できるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのようとに残された。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをいることをいることをいることをいることをいることをいることをいることをいる	基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分		
開設学科 開設期 教科書/教材 担当教員 到達目標 5年間の高専教育で身 終発表会にてリック 卒業論文 卒業研究発表 計画性 学科の到達目標項 教育方法 注意点 授業計画	物通	学科  員から研究分野に関連する  人石井 宏幸,北折 典之,高橋  四識をもとに、指導教員から一発表を行う。 各発表会で  理想的な到達レベルの目安にいた。 各発表会で  理想的な対理を解析である。 との後の変にできるの進展にできるのがよるののである。 とののを関すである。 とののを関するのもないできる。 とののもないできる。 とのもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいに、 ののもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできない。 またいのもないできない。 またいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのは、 はいのもないでは、 はいのはないでは、 はいのはないでは、 はいのは、 はいのはな	対象学年 週時間数 3 教科書や学術論文が適宜 三男,土屋 賢一,町田 茂	指示される (伊藤 第子,伊藤 1) (伊藤 1) (	履修単位: 14 5 14 5 14 ま未希雄,庄司良,城元行う。基づいた卒う 以ルの目安(可) を作成できる 発表を行うことが 実施できる 戦した発表を行うことが 実施できる 戦した発現されたできる。 戦した発現されたできる。 は、独研究テーマラマのおった。 は、とをのを変元できるである。 は、ことをのを変元できるである。 は、ことをのを変元できるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのできるである。 は、ことをのようとに残された。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをのように残さられた。 は、ことをいることをいることをいることをいることをいることをいることをいることをいる	基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分		
開設期 教科書/教材 担当教員 到達目標 5年間の高いで身に終発表会にてリック 卒業論文 卒業研究発表 計画性 学科の到達目標項 教育方法等 概要 授業の進め方・方法 注意点 授業計画	物通	学科  員から研究分野に関連する  人石井 宏幸,北折 典之,高橋  四識をもとに、指導教員から一発表を行う。 各発表会で  理想的な到達レベルの目安にいた。 各発表会で  理想的な対理を解析である。 との後の変にできるの進展にできるのがよるののである。 とののを関すである。 とののを関するのもないできる。 とののもないできる。 とのもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいに、 ののもないできる。 またれいできる。 またれいできる。 またれいできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできる。 またいのもないできない。 またいのもないできない。 またいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないでは、 はいのもないではいいのは、 はいのもないでは、 はいのはないでは、 はいのはないでは、 はいのは、 はいのはな	対象学年 週時間数 3 教科書や学術論文が適宜 三男,土屋 賢一,町田 茂	指示される (伊藤 第子,伊藤 1) (伊藤 1) (	5 14 素 未希雄,庄司良,城 を行う。研究成果に でう。研究成果に できる ができる ができる のででででできる のでででででででできる のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分		
開設期 教科書/教材 担当教員 到達目標 5年間の高いで身に表示し、リック 卒業論文 卒業研究発表 計画性 学科の到達目標項 教育方法等 概要 授業の進め方・方法 注意点 授業計画	垂	員から研究分野に関連する 多、石井 宏幸,北折 典之,高橋 知識をもとに、指導教員か 一発表を行う。 各発表会で 想的な到達レベルの目安 間切な内容の卒業論文を展開 でき、今後の容である の高い質疑に答するで できるの進展にが達成できるの できるのである のののがある のののである のののである のののである のののである ののである。 は、ことののである ののである。 は、ことののである。 は、ことののである。 は、ことののである。 は、ことののである。 は、ことののである。 は、ことののである。 は、ことののである。 は、ことののでは、ことののでは、ことが、 ののでのでは、ことののでは、ことののでは、ことののでは、ことののでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでのでは、ことのでは、ことのでは、ことのでのでは、ことのでは、こ	週時間数 教科書や学術論文が適宜 三男,土屋 賢一,町田 茂, ら与えられたテーマにつでの教員の助言を参考にしての教員の助言を参考にした。 標準的な到達レベルの目 適切な内容の卒業論文を 成できる 適切な卒業研究発表を行ことができる 今後の検討事項に優先順をつけて対応できる。 一位をもって、新しいるの解決にはチームワークで、段階間などをでいるので、段階間などをでいて発表を行っているも同せではチールの時間などをでしているので、日本でいるので、日本でいるので、日本でいるので、日本でいるので、日本でいるので、日本ではあります。	、伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	14 素未希雄,庄司良,城空行う。研究成果に内容に基づいた卒業の以の目安(可) まを作成できる 発表を行うことが実施できる 独ののは、独研デーマすってのでは、とを自のを変元のでは、となら自なでで、このでは、ことのでは、ことのでは、ことのでは、ことの言います。 で、今後に残された。	基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分		
<ul> <li>教科書/教材</li> <li>担当教員</li> <li>到達目標</li> <li>5年間の高中教育で身体発表</li> <li>ループリック</li> <li>卒業論文</li> <li>卒業論文</li> <li>卒業研究発表</li> <li>計画性</li> <li>学科の到達目標項</li> <li>教育方法</li> <li>注意点</li> <li>接業計画</li> <li>1stQ</li> <li>前期</li> <li>2ndQ</li> </ul>	中川 イ に 着けた タ	展の一般では、 の	三男,土屋 賢一,町田 茂, ら与えられたテーマにつけての教員の助言を参考にしての教員の助言を参考にし標準的な到達レベルの目適切な内容の卒業論文を成できる。 適切な卒業研究発表を行ことができる。 一次の検討事項に優先順をつけて対応できる。 「他をもって、新しいるの解決にはチームワーク」性をもって、段階的にはチームフーク」である。 「でいるので、段階的に目でミナールの時間などをできまって、おいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」	、伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	藤 未希雄,庄司 良,城 を行う。 研究成果に 内容に基づいた卒業 いの目安(可) を作成できる 発表を行うことが 実施できる 戦し、独創的な発想 ととの変形でするである。 発気でいること 研究によってはよっては ののででででするである。 はことをのないである。 はことをのではないできる。 はことをのではないできる。 はことをのではないできる。 はことをのではないできる。 はことをのではないできる。 はことをのではないできる。 はことをのではないできる。 は、こととのではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分		
担当教員  到達目標  5年間の高専教育で身終発表会にてフリック  卒業論文  卒業論文  中間で到達目標項  教育方法  一部である。  一部である。  一部である。  一部である。  一部である。  一部である。  「注意点」である。  「注意点」である。  「注意点」である。  「注意点」である。  「記する。  「記述る。  「記述る。	中川 イ に 着けた タ	展の一般では、 の	三男,土屋 賢一,町田 茂, ら与えられたテーマにつけての教員の助言を参考にしての教員の助言を参考にし標準的な到達レベルの目適切な内容の卒業論文を成できる。 適切な卒業研究発表を行ことができる。 一次の検討事項に優先順をつけて対応できる。 「他をもって、新しいるの解決にはチームワーク」性をもって、段階的にはチームフーク」である。 「でいるので、段階的に目でミナールの時間などをできまって、おいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」 「はいて発表を行う。」	、伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第子,伊藤 第十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	を行う。 研究成果に 内容に基づいた卒業 の内容に基づいた卒業 の内容に基づいた卒業 の目安(可) でを作成できる できる できる できる できる できる できる できる	基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分		
到達目標 5年間の高専教育で身終発表会にて口頭また ルーブリック	は に は に は に は に は に に は に に に に に に に に に に に に に	知識をもとに、指導教員かか一発表を行う。 各発表会で一発表を行う。 各発表会で一発表を行う。 各発表会では、	ら与えられたテーマについての教員の助言を参考にしての教員の助言を参考にした。 標準的な到達レベルの目適切な内容の卒業論文を成できる。 適切な卒業研究発表を行ことができる。 今後の検討事項に優先順をつけて対応できる。 新して対応できる。 でいるので、段階間などをしていて発表を行う。 ご覧 はいて発表を行う。 ご覧 はるよう いまり こと はいて発表のる。	いて全自研究の 全国 を	を行う。 研究成果に 内容に基づいた卒業 の内容に基づいた卒業 の内容に基づいた卒業 の目安(可) でを作成できる できる できる できる できる できる できる できる	基づき中間発表会および最 論文を執筆する。 未到達レベルの目安 卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことが できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけ じて学ぶ。 で異なるが、中間発表会と を期待している。10月下 資票および目的、ならびに、通 課題、よび言での質疑応答を通 課題、行うでき実験を十分		
5年間の高事教育で身終発表の出し、アクー・アクー・アクー・アクー・アクー・アクー・アクー・アクー・アクー・アクー・	ではボボスク 野 道の大 質 ここ 有	一発表を行う。 各発表会で 想的な到達レベルの目安 間切な内容の卒業論文を展開できる内容でををするで でき、る内容でををするでをするでであるで でのの進展にで達成できるでであるでできるでできるでであるででであるででであるででであるででである	での教員の助言を参考にした。 標準的な到達レベルの目 適切な内容の卒業論文を成できる 適切な卒業研究発表を行ことができる 今後の検討事項に優先順をつけて対応できる (権力を駆使して、新しい) ではチームワークでで、段階的にはチームの時間などをできる。 できる	会ででは、 一般では、 一を、 一を、 一を、 一を、 一を、 一を、 一を、 一を	<ul> <li>内容に基づいた卒事</li> <li>ルの目安(可)</li> <li>を作成できる</li> <li>発表を行うことが</li> <li>実施できる</li> <li>戦し、独創的な発想</li> <li>会自のを変元テーすること</li> <li>研究によっていること</li> <li>研究を研究によっている。</li> <li>は、独介ではること</li> <li>は、一般にはないではない。</li> <li>は、一般にはない。</li> <li>は、一般にはない。</li> <li>は、一般にはない。</li> </ul>	議立を執筆する。  未到達レベルの目安  卒業論文を作成できない  卒業研究発表を行うことができない  計画的に実施できない  計画的に実施できない  と問題発見能力を身につけじて学ぶ。  て異なるが、中間発表会とを期待している。10月下資票および目的、ならびに、よび報告会での質疑応答を通課題、行うでき実験を十分		
ルーブリック         卒業論文         卒業研究発表         計画性         学科の到達目標項         概要         授業の進め方・方法         注意点         授業計画         IstQ         前期         2ndQ	到	想的な到達レベルの目安 がな内容の卒業論文を作 でき、今後の不 でき、今後のである でき、今後の容である の高い質疑にできるで の高の進展にで達成できるで でできるできるで のである のである のである のである のであると のである のできるの 関係 の高専教育で得た知識した を目的と、の場をとの。 最にに、 のを目のもの。 はのに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、	標準的な到達レベルの目 適切な内容の卒業論文を 成できる 適切な卒業研究発表を行 ことができる 今後の検討事項に優先順 をつけて対応できる (術力を駆使して、新しい で解決にはチームワーク でいるので、段階的に目 ゼンカールの時間などを でして発表できる。 では でいて発表を行う。 さ	国安 到達レバス では、 一	ルの目安(可)  を作成できる  発表を行うことが  実施できる  戦し、独創的な発想 ことをの変形ですって。この間にしたのででである。  はいていることが はいている	未到達レベルの目安  卒業論文を作成できない  卒業研究発表を行うことができない  計画的に実施できない  計画的に実施できない  と問題発見能力を身につけして学ぶ。  て異なるが、中間発表会とを期待している。10月下 場影よび目的、ならびに、通過で数性会での質疑応答を通過である。10月下		
卒業論文         卒業研究発表         計画性         学科の到達目標項数育方法等         概要         授業の進め方・方法         注意点         授業計画         1stQ         前期         2ndQ	1 を	がな内容の卒業論文を作れてき、今後の研究の展開でき、今後の研究の展開で見通せる内容であるであるであるでいる。では、近の高い質疑応答をこなずるできるできるできるできるできるできるという。というでは、自動をしたが、のは、自動をといるでは、自動をといる。というでは、自動をといる。というでは、自動をといる。というでは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、は、自動をといるが、は、自動をといるが、は、自動をといるが、は、自動をといるが、自動をといる。といるが、自動をといる。といるは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動を	適切な内容の卒業論文を成できる  適切な卒業研究発表を行ことができる  今後の検討事項に優先順をつけて対応できる  (術力を駆使して、新しいるの解決にはチームワークでをもって研究にあたる)でいるので、段階的に目ゼミナールの時間などをこついて発表を行う。 ※ これよう努める、研究	で 学業 学	を作成できる 発表を行うことが 実施できる 戦し、独創的な発想 ことをの変行ーマによって はことをの変元ですること 研究がデーマによって はことの討論的 は、で、今後に残された。	卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことができない 計画的に実施できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけじて学ぶ。 て異なるが、中間発表会とを期待している。10月下資票および目的、ならびに、よび報告会での質疑応答を通課題、行うでき実験を十分		
空業研究発表 計画性 学科の到達目標項教育方法等 概要 授業の進め方・方法 注意点 授業計画 1stQ 前期 2ndQ	1 を	がな内容の卒業論文を作れてき、今後の研究の展開でき、今後の研究の展開で見通せる内容であるであるであるでいる。では、近の高い質疑応答をこなずるできるできるできるできるできるできるという。というでは、自動をしたが、のは、自動をといるでは、自動をといる。というでは、自動をといる。というでは、自動をといる。というでは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、のは、自動をといるが、は、自動をといるが、は、自動をといるが、は、自動をといるが、は、自動をといるが、自動をといる。といるが、自動をといる。といるは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動を	適切な内容の卒業論文を成できる  適切な卒業研究発表を行ことができる  今後の検討事項に優先順をつけて対応できる  (術力を駆使して、新しいるの解決にはチームワークでをもって研究にあたる)でいるので、段階的に目ゼミナールの時間などをこついて発表を行う。 ※ これよう努める、研究	で 学業 学	を作成できる 発表を行うことが 実施できる 戦し、独創的な発想 ことをの変行ーマによって はことをの変元ですること 研究がデーマによって はことの討論的 は、で、今後に残された。	卒業論文を作成できない 卒業研究発表を行うことができない 計画的に実施できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけじて学ぶ。 て異なるが、中間発表会とを期待している。10月下資票および目的、ならびに、よび報告会での質疑応答を通課題、行うでき実験を十分		
計画性	ります。 自己 「日と 「日と 「	で高い質疑応答をこなし 研究の進展に資するディ (カッションが達成できる 研究の近展に資するディ (究のゴールとその後の展 はで考察できる 関係 の高専教育で得た知識と関 を目的とする。また、自を のので報告の場をとの場 を目的とする。と、各 の場をでの報として は、 の進展状況に 今後の課題等を明。3月上 発表は学会発表の形式で行	っそができる 一今後の検討事項に優先順をつけて対応できる  「術力を駆使して、新しいで解決にはチームワークでであって、段階的に目でいるので、段階的に目ではチールの時間などをでして発表を行う。	できる 種位 計画的に 研究対象に挑が重要で進度は に表現用段階でかなら と発表型のみなら できる 研究対象に挑っ できる できる できる できる できる できる できる できる	実施できる 戦し、独創的な発想 ことを研究活動を通 ・各自のテーマによっ ・研究を遂行すること した研究テーマのと した研究テーマのと は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	できない 計画的に実施できない 計画的に実施できない と問題発見能力を身につけじて学ぶ。  て異なるが、中間発表会と を期待している。 10月下 領景および目的、ならびに、 対策告会での質疑応答を通		
学科の到達目標項 教育方法等 概要 授業の進め方・方法 注意点 授業計画 1stQ 1stQ	百目と 5る 指最旬こし 第終にのて 2・ 3・ 3・ 3・ 4・ 4・ 5・ 4・ 5・ 5・ 5・ 6・ 7・ 7・ 8・ 8・ 8・ 8・ 8・ 8・ 8・ 8・ 8・ 8	院のゴールとその後の展まで考察できる 関係 関係 の高専教育で得た知識と技を目的とする。また、問題 員の指示のもと、各自計画 表会の2度報告の場を設け 間発表会を行う。 という はまでの研究の進展状況に 点までの研究を明確に把握 しておくこと。。 3月上も 発表は学会発表の形式で行	(術力を駆使して、新しいの解決にはチームワーク)性をもって研究にあたる)で、段階的に目ゼミナールの時間などをこついて発表を行う。	研究対象に挑ぶが重要である。 こと。 進しは でを設して調で を利用して調での に対けている。	戦し、独創的な発想 ことを研究活動を通 ・各自のテーマによっ 研究を遂行すること ・した研究との計 ・した研究との計 ・は、今後に残された	と問題発見能力を身につけじて学ぶ。 つて異なるが、中間発表会とを期待している。 10月下 場景および目的、ならびに、 よび報告会での質疑応答を通		
教育方法等 概要 授業の進め方・方法 注意点 授業計画 1stQ	5る 指表句にのは、	の高専教育で得た知識と技を目的とする。また、問題 員の指示のもと、各自計画 表会の2度報告の場を設け 間発表会を行う。 各自、 点までの競野等を明確に把握 しておくこと。。 3月上旬 発表は学会発表の形式で行	値の解決にはチームワーク p性をもって研究にあたる すているので、段階的に目 ゼミナールの時間などを こついて発表を行う。  ■ は るよう怒める。 研究	が重要である こと。 進度は 標を設定して 受利用して調査 準備段階での打 に に に に に で が に で が に に に に で に で に で に	ことを研究活動を通 ・各自のテーマによっ ・研究 を遂行すること ・した研究テーマの間 ・旦当教員との討論お ・す。 今後に残された	じて学ぶ。  つて異なるが、中間発表会と こを期待している。 10月下 資景および目的、ならびに、 よび報告会での質疑応答を通 課題、行うべき実験を十分		
教育方法等 概要 授業の進め方・方法 注意点 授業計画 1stQ	5る 指表句にのは、	の高専教育で得た知識と技を目的とする。また、問題 員の指示のもと、各自計画 表会の2度報告の場を設け 間発表会を行う。 各自、 点までの競野等を明確に把握 しておくこと。。 3月上旬 発表は学会発表の形式で行	値の解決にはチームワーク p性をもって研究にあたる すているので、段階的に目 ゼミナールの時間などを こついて発表を行う。  ■ は るよう怒める。 研究	が重要である こと。 進度は 標を設定して 受利用して調査 準備段階での打 に に に に に で が に で が に に に に で に で に で に	ことを研究活動を通 ・各自のテーマによっ ・研究 を遂行すること ・した研究テーマの間 ・旦当教員との討論お ・す。 今後に残された	じて学ぶ。  つて異なるが、中間発表会と こを期待している。 10月下 資景および目的、ならびに、 よび報告会での質疑応答を通 課題、行うべき実験を十分		
概要 授業の進め方・方法 注意点 授業計画  1stQ  前期  2ndQ	ること 指線領 に中 に に に に に に に に に に に に に に に に に に	を目的とする。また、問題 員の指示のもと、各自計画 表会の2度報告の場を設け 間発表会を行う。 各自、 点までの研究の進展状況に 今後の課題等を明確に把握 しておくこと。。 3月上も 発表は学会発表の形式で行	値の解決にはチームワーク p性をもって研究にあたる すているので、段階的に目 ゼミナールの時間などを こついて発表を行う。  ■ は るよう怒める。 研究	が重要である こと。 進度は 標を設定して 受利用して調査 準備段階での打 に に に に に で が に で が に に に に で に で に で に	ことを研究活動を通 ・各自のテーマによっ ・研究 を遂行すること ・した研究テーマの間 ・旦当教員との討論お ・す。 今後に残された	じて学ぶ。  つて異なるが、中間発表会と こを期待している。 10月下 資景および目的、ならびに、 よび報告会での質疑応答を通 課題、行うべき実験を十分		
授業の進め方・方法 注意点 授業計画 1stQ  in  2ndQ	ること 指線領 に中 に に に に に に に に に に に に に に に に に に	を目的とする。また、問題 員の指示のもと、各自計画 表会の2度報告の場を設け 間発表会を行う。 各自、 点までの研究の進展状況に 今後の課題等を明確に把握 しておくこと。。 3月上も 発表は学会発表の形式で行	値の解決にはチームワーク p性をもって研究にあたる すているので、段階的に目 ゼミナールの時間などを こついて発表を行う。  ■ は るよう怒める。 研究	が重要である こと。 進度は 標を設定して 受利用して調査 準備段階での打 に に に に に で が に で が に に に に で に で に で に	ことを研究活動を通 ・各自のテーマによっ ・研究 を遂行すること ・した研究テーマの間 ・旦当教員との討論お ・す。 今後に残された	じて学ぶ。  つて異なるが、中間発表会と こを期待している。 10月下 資景および目的、ならびに、 よび報告会での質疑応答を通 課題、行うべき実験を十分		
授業計画  1stQ  inji  2ndQ	う。   する	٥	」い、本权任子王(主にら	研究発表会 4 1年生)、保護	者をはじめ、企業、	卒業研究の最終発表会を行 非常勤講師、一般にも公開		
授業計画  1stQ  in  2ndQ		<u>。</u> 三業研究は自主的に行うこと		に設定されてい	、ス時間外の白学白			
1stQ 前期 2ndQ	/工志 -			COLECTION				
前期 2ndQ	週	<b>运</b>		<b>'田 ブ' し</b>	の到を口槽			
前期 2ndQ	1週	授業内容   各研究室での卒業研究の			の到達目標  に卒業研究に取り組	7±\		
前期 2ndQ	2週	日上	ノ夫ル	同上	11に平耒別九に取り社	10		
前期 2ndQ	3週	同上		同上				
前期 2ndQ	4週	同上			同上			
2ndQ	5週	同上			同上			
2ndQ	6週	同上			同上			
2ndQ	7週	同上		同上				
2ndQ	8週	同上		同上				
	9週	同上		同上				
	10週	同上		同上				
	11週	同上		同上				
	12週	同上		同上				
3rdQ	13週	同上		同上				
3rdQ	14週	同上		同上				
3rdQ	15週	同上		同上				
3rdQ	16週	同上		同上				
3rdQ	1週	同上		同上				
3rdQ	2週	中間発表		同上				
3rdQ	3週	各研究室での卒業研究の		同上				
3rdQ	4週	同上		同上				
	5週	同上		同上				
	6週	同上		同上				
	0,00	同上		同上				
後期	7週	同上		同上				
		同上		同上				
	7週	同上		同上				
	7週 8週	同上		同上				
4thQ	7週 8週 9週			同上				
13.14	7週 8週 9週 10週 11週	同上			同上			
	7週 8週 9週 10週 11週 12週	同上			同上			
	7週 8週 9週 10週 11週				同上			

		1.0	<b>—</b>	<del> &gt;44</del>				Tel				
		16週		卒業研究発表会				同上				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標												
分類	分類		分野		学習内容	学習内容の到達目		到達レベル	授業週			
評価割合												
		研究成果			頭発表	卒業論文	態度	ポートフォリオ	その他 合計		·計	
総合評価割	合	50		20	)	30	0	0	0		00	
基礎的能力		0		0		0	0	0	0			
専門的能力		50		20	)	30	0	0	0		00	
分野横断的	能力	カ 0		0		0	0	0	0 0		·	